
77巻3号

2022年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

793号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



NGC6992 網状星雲

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正本

夏至が過ぎたばかりの6月末というのに梅雨明けのニュースがあり、横浜は夏空が広がりそれとともに猛暑の毎日となっています。これから先の暑さに気が重くなります。

7月の天象は、2回の星食がメインイベントでしょうか。まず10日夜にさそり座の δ 星（アンタレスの西側に南北に並ぶ3つの星-さそりの頭-の中央の星）の星食があります。横浜では22時12分過ぎ月齢11.4の月の暗い方の縁に隠れていきます。フッと星が消える様は見えていて面白いものです。そして23時28分に明るい方の縁から姿を再び現します。しかし、出現の方は月と δ 星の光度差が大きいので見るのは難しいかもしれません。

もう一つは火星食です。21日深夜から22日未明の現象ですが、潜入は横浜では月が昇ってきた直後のため厳しいかもしれませんが、月齢22.5の月の暗い縁からの出現はじわじわと現れてくる様子を見ることができます。点光源である恒星の星食は潜入も出現も瞬間のことですが、惑星だと面積があるため“じわじわ”という感じに見えます。双眼鏡や望遠鏡で見ると判りやすいと思います。

7日は七夕さまですが、今年は梅雨明けが異様に早かったので、晴天になる可能性が高いかもしれません。また8月4日が「伝統的七夕」（旧暦とは違うもの）だそうですが、その頃のほうが夜の9時ごろにはおりひめ星もひこ星も天高く昇っていて見栄えがいいですね。

8月というとお馴染みのペルセウス座流星群です。今年は極大日13日の前日が満月ということで条件は最悪ですが、月を視界から外すようにすれば、ペルセウス座流星群は明るい流星も多いので見ることができます。とくに空気の澄んだ場所であればよけいに見やすいです。

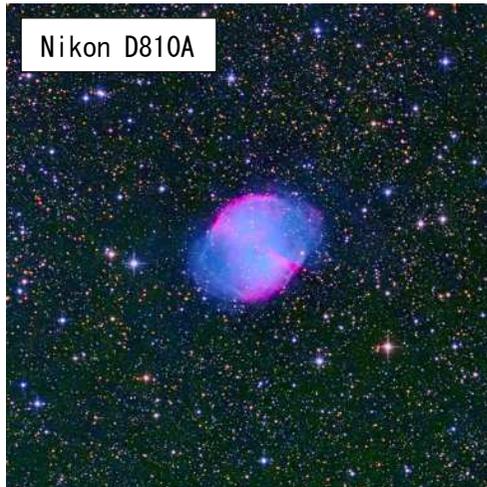
15日に土星がやぎ座で衝（0.3等）、続いて木星が9月27日にうお座で衝（-2.9等）となります。これから昇ってくる時刻もだんだん早くなってきますので、暮れにかけて観測しやすくなります。

9月は10日が満月で、中秋の名月です。近ごろはお月見をする風習も減りつつあるのかもしれませんが、近所のスーパーでは毎年お月見団子が売られています。団子とセットで飾るのが秋の七草のひとつススキですが、9月の初旬では家のまわりでススキを見つけるのが難しそうです。ちなみに十三夜（のちの月）は、今年は10月8日です。十五夜と十三夜のお月見は両方して良しとし、一方だけでは片月見と呼び避けられてきたそうです。

新機材始動 (25cmニュートン式望遠鏡)

山形幹夫

新機材25cmニュートン式望遠鏡、 $f=1000\text{mm}$ が始動しました。赤道儀は観測所の共同機材です。鏡筒の鉄板が薄いため鏡筒バンドを前後に追加して補強。クランプを緩めると光軸が狂ってしまうため、ナット締めにして容易に緩めないようにしています。カメラと赤道儀、オートガイダーはPCに接続して撮影。コマコレクターは星像が良いSky-Watcher製を使用。これにより撮像素子サイズを大きく使用することが可能となり、カメラはフルサイズ一眼レフであるNikon D810Aを取付け。



早速撮影したM27の画像を比較します。左は会報789号表紙写真で冷却CMOSワンショットカラーカメラで撮影、望遠鏡は25cmF5.6。右はD810Aで撮影。まずあれっと思うのは写っている星の数です。暗い星の数が随分違うように思います。右は中間調の写りが良く、画像処理で中間調を下げています。対して左は中間調を持ち上げていますが、この程度。逆に内部の $H\alpha$ 領域の構造が良く見えて良いか？。そうは言っても、右は右端部に赤がちょろっと出ています。この差はカメラの画像処理エンジンの有無？、それとも望遠鏡？、25cmF5.6古いからなあ。後日検証しましょう。ところで、QHYのガイド用CMOSカメラのPC接続で不具合が発生している方はいませんか？小生と仲間内は皆発生中。情報求む。ドライバーソフトが怪しい。小生、結局ZWOのカメラも購入しました。

表紙画像：はくちょう座網状星雲東側NGC6992-5 撮影日：2022年5月30日

撮影地：長野県富士見町入笠山 望遠鏡：口径25cm、焦点距離：1000mm

カメラ：Nikon D810A 感度：5000、露出：60秒×21ショット、同フラット7ショットをコンポジット。周囲に青く光る分子雲がある？それとも霧のせいかな？

日月星の伝承を訪ねて (72)

横山好廣

長井漁港及び周辺の調査記録②

◎新宿漁港、荒井漁港付近における調査から (前号のつづき)

・星の名

- メラボシ (竜骨座 α 星 カノープス)

「この星が見えるとよう気が悪くなる」と父親からきいた。

「海からあまり上がらない。この星が出るとよう気が狂ってくる」

- *メラボシは漁師にとって、漁の安全に関わる要注意の星であった。

このようなメラボシに対する見方は三浦半島全体に及んでいた。

- アケノミョウジン、ヨイノミョウジン

ヨアケボシ、オーボシ (金星) 「オーボシは朝、東から出てくる」

・観天

- 「ミツボシ、スバルは時計の役割を果たしてくれた。鳥の鳴き声で起き出し、ばせき (場席か) を変えずに、星が何処にかかるかで時間を知った」

- 「日数を経ると、星は少しずつ西に移っていく」

*朝早く起き、同じ場所で星や雲を観、海鳴りや風に耳を澄まし、一日の漁の安全を確認したのであろう。殊に、漁師の命を預かる網元には大切な仕事であった。こうした毎日の観察から、自然の変化を感知し、日・月や星の動きの規則性などを実感したと思われる。

・航海

- 「大伊豆の島や三宅には、コンパスを使って行っていた」

- 「銚子から青森に行くには、ヒトツボシを目当てにして行くと間違いなく着くものだ」(再掲)

*漁場によって、コンパスとヒトツボシを使い分けていたらしい。

・月見

「片割れ月はいけない」といい片見月を嫌い、十五夜と十三夜をする。

月の光が差し込む縁側にテーブルなどを台にして供える。ススキはお神酒に差し、新宿ではロウソクも供える。里芋(十五夜 15 個、十三夜 13 個)、ぼたもち(15 個、13 個)、サツマイモ、柿などを並べる。

子供たちは「十五夜(十三夜)ぼたもちケーラッセー」と唱えて、家々を廻り歩く。数年前にPTAなどの方から禁じられたが復活した。今は各家庭でお菓子などを用意しておくが、それまでは里芋などもあげていた。

◎平成 23(2011)年 7 月 5 日 横須賀市佐島、佐島漁港付近での調査。

話者は大正 15 年生れの元・見突き漁師。

佐島漁港は小田和湾の北にあり、長井漁港とは湾内で向き合う形に位置する。

- ・アケノミョウジョウ、ヨイノミョウジョウ（金星）

「朝、空が白んでくると見えなくなる」

- ・サンゲンボシ（オリオン座三星）

「同じ間隔に三つ並ぶ。縦や斜めに見える」

「冬によく見えて、中天である」

子どもの頃、冬の銭湯の帰りに「サンゲンボシが出てる」などと言った。

- ・メラボシ（竜骨座 α 星 カノーパス）

父親から聞いた話として「海が荒れる前に現れる星がある。季節は冬だが、名を思い出せない」ということであった。そこで、その候補としてメラボシ・デーナンボシ・ダイナンボシなどの名を挙げると、それは「メラボシ」だと思い出し、父親に「メラの漁師はマグロの延縄漁で昔から遭難にあった」とも聞いたと付け加えてくれた。

- *小田和湾の北と南で「メラボシ」に関する伝承を確認することが出来たのは嬉しかった。

- ・月見

「オハギ・ボタモチを十五夜に 15 個、十三夜に 13 個供え、ススキは徳利に差した」

「夜になると、とりに行ったものだ」

- *長井、佐島付近ではススキをお神酒に差すようである。豊漁や潮の干満、豊作を司る月の神へのお供えという意識の表れであろうか。所謂、風流な月見とは違う。

- ・観天望気

「リョウコビ(ヨココビ) 二夜三日 風」・「朝コビは時化」

- *「コビ」とは、日暈とは異なり雲のように明るい所という説明。リョウコビ(ヨココビ)とは太陽の左右に現れる幻日のようなものか。

「沖が暗いのはイナサか雨かカラスネコの目が光る」

- *「イナサ」は台風時の南東の危険な風を指す。

- *カラスネコは真っ黒な猫のことだと話してくれたが、真っ黒な雲のこと、目が光るで稲妻のことかと想像する。危険な状況を表している。

「お山の 雲笠 隣りのボタモチ」

- *富士山にかかる笠雲は、消えてもすぐに出てきて怖い南西の風(ナンセイ・ニシ・オキノカゼ)が吹いてくるという意味で、隣の家でボタモチを作るとすぐに配ってくることに重ねているところが面白い。

◎平成 23(2011)年 5 月 27 日、6 月 4、25 日 横須賀市林での調査。

話者は昭和 6 (1931)年生れの商店主、昭和 11 年生れの農夫と主婦、年齢不詳の主婦。林地区は内陸で長井の北東に位置し、住宅地の様相を呈している。

- ・オテントサマ (太陽)
- ・ナナツボシ (北斗七星)
- ・ミツボシ (オリオン座三星)
- ・月見

「片月はいけない、十五夜と十三夜の両方をするもの」

「一升瓶にススキや萩を差し、燈明、お神酒も供え、団子は十五夜に 15 個、三夜に 13 個供える。団子の代わりに饅頭にする家もある」

「里芋、サツマイモ、柿なども供える」「昔は団子突きをした」

「豆腐一丁のまま、切らずに水を張った器に入れてお月様に供える」

*豆腐を供えるというのは、長井や佐島に見られない。その由来は不明。

- ・二十三夜塔

右の写真は三浦半島に数少ない二十三夜塔である。その根拠は、この菩薩像を祀る太田家で、この像を「サンヤサマ」と呼んでいることにある。この呼称に従えば菩薩像は二十三夜の主尊・勢至菩薩になる。また、座像の下部に注目すると、瑞雲が下弦の月の形にあしらわれているように見える。よって二十三夜塔に推定したわけである。太田家では今は特別な行事はしていないが、毎月一日に榊とご飯を上げているそうである。



所在地 横須賀市林 5 丁目

二十三夜塔の形態・法量

◎舟形光背碑・乗月雲合掌菩薩坐像

造立年代 嘉永三年(1850)十二月吉日

碑高 45.5 cm 碑幅 23 cm 像高 29.5 cm

*周辺の住民は「星神様」「七夕様」と言って、豊作や健康を祈っているが、詳しいことは不明である。

(「長井漁港及び周辺の調査記録」了)

天象

相原 榮

7月

水星: 明けの東北東天、後半は夕方の西北西天 $-0.6\sim-2.1\sim-0.7$ 等 ふたご→かに座
金星: 明け方の東天で輝く -3.9 等 おうし→ふたご座
火星: 夜半に昇る $+0.5\sim+0.2$ 等 うお→おひつじ座
木星: 夜半前に昇る、観望好期 $-2.5\sim-2.6$ 等 くじら座
土星: 宵に昇る、観望好期 $+0.5\sim+0.4$ 等 やぎ座

7日 11h14m 半月(上弦)
11h38m 小暑
14日 03h38m 満月
19日 明け方の南東天で月と木星の接近
20日 23h19m 半月(下弦)
21日 深夜の月出直後に火星食(北日本)

22日 明け方に月と火星の接近
23日 05h07m 大暑
27日 明け方の東北東天で月と金星の接近
29日 02h55m 新月
30日 やぎ座 α 流星群が極大の頃
20h みずがめ座 δ 南流星群が極大の頃

8月

水星: 夕方の西天、高度は低い $-0.7\sim+0.4$ 等 しし→おとめ座
金星: 明け方の東北東天で輝く -3.9 等 ふたご→かに座
火星: 夜半頃に昇る $+0.2\sim-0.1$ 等 おひつじ→おうし座
木星: 宵に昇り夜半過ぎに南中、観望好期 $-2.7\sim-2.8$ 等 くじら座
土星: 一晩中楽しめる、観望好期(15日に衝) $+0.3$ 等 やぎ座

5日 20h07m 半月(上弦)
7日 21h29m 立秋
12日 10h36m 満月
13日 10h ペルセウス座流星群が極大の頃
(悪条件)
15日 深夜に月と木星の接近
18日 15h はくちょう座 κ 流星群が極大の頃

19日 13h36m 半月(下弦)
20日 未明に月と火星・M45(プレアデス星
団)の接近
23日 12h16m 処暑
26日 明け方に月と金星の接近
27日 17h17m 新月

9月

水星: 夕方の西天低空、月末は明け方の東天 $+0.4\sim+5.8\sim+2.4$ 等 おとめ座
金星: 明け方の東天で高度を下げる -3.9 等 しし→おとめ座
火星: 夜半に昇り明け方南中 $-0.1\sim-0.6$ 等 おうし座
木星: 一晩中観望出来る、観望好期(27日に衝) -2.9 等 うお座
土星: 夜半前に南中、観望好期 $+0.3\sim+0.5$ 等 やぎ座

4日 03h08m 半月(上弦)
8日 00h32m 白露
10日 18h59m 満月(中秋の名月)
12日 夜半に月と木星の接近

17日 夜半過ぎに月と火星の接近
18日 06h52m 半月(下弦)
23日 10h04m 秋分
26日 06h55m 新月